

祓川 貴弘さん（白河市）

白河市の祓川貴弘さんにお話をうかがいました。

祓川さんは、以前はスキーのコーチをしていましたが(冬季は現在も講師として活躍)、先輩きゅうり農家である叔父の教えを受けながら農業を始め、きゅうりの栽培を始めて今年で4年目となります。現在では春はたまねぎ、秋はブロッコリーの栽培も行っています。また農業関連の研修会にも積極的に参加し、栽培方法や農業経営などについて学んでいます。



祓川貴弘さん



等級 A(上)と等級 C(下)

きゅうりは約 20aの畑で栽培されています。収穫は朝 5 時前と夕方の 1 日 2 回行われ、収穫されたきゅうりは農協へ出荷されま
す。きゅうりは気候によっては一晩で2倍の大きさになることもあり、
1 日でも時期を逃すと規格外の大きなきゅうりになってしまうため、
7 月～9 月下旬の収穫期間中は目が回るほど忙しいとのことでした。
「農業は1から10まで自己責任で、全て結果となって出てくるから雑なことは出来ない。全ての仕事を丁寧にこなせばいい結果がついてくると思っている。」とおっしゃっていました。

「農業をしていて、自分の作ったもので喜んでもらうと生産者冥利に尽きる。販路を広げることも考えるが、まずは安定的に生産できるように努力したい」とお話をいただきました。

お忙しい中取材を受けていただき、ありがとうございました。